



かるがも便り10月

発行

石神井まちづくりの会

1月 4月 7月 10月の4回発行

代表兼編集者 下河秀行

デザイン・構成 長安透

53

今号の 記事内容

- 1面: 第1回石神井公園駅周辺地区まちづくり懇談会が開かれた
 2面: [特別寄稿] 石神井の歴史シリーズ 第一回「石神井城の変遷」について
 3面: ～地元で誕生した「石神井int'lオーケストラ」に期待する～
 4面: 第4回「石神井・再発見ウォーク」、第13回「歴史と文化講座」、編集後記など

第1回石神井公園駅周辺地区まちづくり懇談会開かれる！

みどりの風吹くまちビジョンの紹介

平成27年8月28日石神井庁舎5階で、第1回「石神井公園駅周辺地区まちづくり懇談会」が地元区民を対象に開催された。

内容は、まず最初に都市整備部西部まちづくり課担当者から、新しい成熟都市練馬をめざして「みどりの風吹くまちビジョン」と題して、1. 策定の目的、2. ビジョンの構成、3. ビジョンの位置づけなどについて、白書「構想や戦略計画の立案の背景を示す」、構想「10年以上先を見通した施策の方向性を示す」、戦略計画「5か年のリーディングプロジェクト」などの説明があった。

新しい成熟都市を目指す施策の方向性として、(1) 子どもの成長と子育ての総合的な支援、(2) 安心して生活できる福祉・医療の充実、(3) 安心・快適な都市の実現に向けた基盤整備、(4) 練馬区の魅力を楽しめるまちづくり、(5) ビジョンの実現のために、などが説明された。

これまでのまちづくりを振り返る

次に、これまでのまちづくりを振り返るでは、石神井公園駅周辺地区「まちづくり全体構想」の説明が詳しくされた。石神井公園駅周辺地域のまちづくりは、平成12～13年度には、地域の町会・商店会の代表と公募による区民で構成する「石神井公園駅周辺地区まちづくり協議会」(委員20名)を設置し、今後のまちづくりの在り方について検討されたのである。

16回に及ぶ協議会の結果を「区長への提言」に取りまとめ、平成15年住民説明会を経て、「石神井公園駅周辺地区まちづくり全体構想」として策定されたものである。それに基づいて、石神井公園駅周辺地区まちづくりの課題を検討し、第一段階、第二段階(その1)、第二段階(その2)と進んで、現在第三段階に入っている。



▲まちづくり懇談会の模様

趣旨説明についての質疑応答・・・

質疑応答では、駅南口西地区232号線沿道の再開発、石神井のみどり、補助幹線道路232線のあり方や必要性など、地域交通問題を中心に石神井のまちづくりについて、いろいろの質問が交わされた。この懇談会は、今後2か月一回位のペースで開催されることになった。今後、区民の意見を取り入れて、もっと突き込んだ議論が望ましい。(下河秀行)

第17回 ち儿コロ石神井 ～集いの市場を11月8日(日)に開催!

石神井公園商店街と有志にもよる「地産直産品、おすすめ品の販売」を開催します。今年は、地元石神井産の野菜を販売予定です。お弁当・生ビールや手作りのマーケットなど、石神井の風物詩として定着してきました。参加者がそれぞれ趣向を凝らし楽しみながらお買い物が出れます。

◎と き: 2014年11月8日(日) 午前11時～4時まで。*天候により、出店内容が変更される場合があります。

◎と ころ: 石神井公園商店街銀座通りと参加各店。

★主 催: 石神井公園商店街振興組合

🌿 [[石神井公園歴史秘話①] 石神井城址の変遷 🌿

中世の豪族・豊島氏の本拠地である石神井城は、文明9（1477）年に江戸城主・太田道灌の攻撃を受けて落城し、以後廃城となった。城址の一部は今も三宝寺池南側に残されているが、その内郭部や周辺はこれまで実にさまざまな変遷を経てきている。それを順を追いつながり辿ってみることにしたい。

まず、寺伝によれば道灌は、豊島氏の菩提寺である道場寺を焼き払い、一方では小仲原（現・石神井公園野球場B付近）にあった三宝寺を西約500メートルの現在地に移したとされる。理由については「豊島方の戦没者供養のため」とされているが、現・三宝寺の裏山付近は城主の平時の館跡だったとも考えられる場所（昭和50年代までは空堀跡も残存）なので、これはむしろその破壊や占拠のアピールが目的であったとみた方がよさそうである。道灌が三宝寺を保護した理由に関しては全く不明であるが、同寺が鎌倉大乗寺の幸尊法印の開山で、道灌自身も鎌倉出身であることから考えれば、そこには何らかの繋がりがあったことなども推測できよう。なお、当時のことか、のちの時代かは不明であるが、三宝寺裏山の館跡は約三分の一がえぐり取られる形で崩され、本堂はその跡に建てられることになった。

その後、城址の大半は江戸末期に至るまで放置されるままとなったようで、『新編武蔵風土記稿』や『江戸名所図会』にも、一応石神井城に関する記述は登場するものの、特に「観光名所」として注目を浴びた形跡はない。また、内郭部は近年の発掘結果（江戸期の陶磁器が出土）をみる限り、一時住居として使用されたりもしていたようである。そして、時期は不明（江戸後期～明治初期？）ながら、やがては内郭部の東側は約三分の一崩され、空堀の底を大きく拡げる形で、江戸期の名主・栗原氏の邸宅が建てられることになった。この時崩された土塁の土によって内郭南側の空堀は埋められ、さらにそこには土が盛られて緩やかなスロープも造られている（現在の内郭部南側の細道）。非常に残念なことだが、内郭部の中心部建物があったと推定される部分はもはや現存していないのである。

明治期以降になると、内郭部は墓地になったり、牧場として利用されたり、畑になったりもしていたと伝えられている。

また、同地は大正8（1919）年に東京府史蹟に指定され、

翌大正9年になると当時の村長より内郭北側に「人工内郭北側に「人工滝」が造られた（滝は大正12年＝1923年の関東大震災で崩落し、以後営業中止）。さらに昭和12（1937）年には、三宝寺橋たもとに、石神井風致協会によって「石神井城址史蹟碑」が建てられ、この頃から城址は名所としても徐々に知られるようになっていく。だが、特に戦後になってからは周辺の住宅化が進み、昭和28（1953）年には三宝寺池西南側に残されていた土塁・空堀が崩された。

3年後の昭和31（1956）年には初の発掘調査が行われたが、その後物見櫓の跡などはアスファルトの下敷きになってしまっている。発掘調査は、昭和47（1972）年に内郭東の池淵遺跡でも行われ、石神井城に関連すると思われる溝跡なども発見されたが、同地はその後史蹟公園とプールとなり、さらに平成22（2010）年には「石神井公園ふるさと文化館」が建設された。話は前後するが、平成元（1989）年には練馬区長（当時）岩波三郎氏により、内郭部に「天守閣付き郷土資料館」を建設する計画が出されるが、地元から反対運動が起きたため、結局これは廃案となっている。また、昭和50年代には内郭部周囲にフェンスが設けられ、特定期間以外のは入場は禁止となった。

このように現在、城址は内郭の一部が残るのみで、同地への立ち入りも大幅に制限されているが、それでも23区内において中世城郭がこれだけ良好な状態で保存されているケースはほとんどない。このことは城址が公園内に位置していたゆえの幸運であり、「奇跡」に近いことだったともいえるのであろう。

文：葛城明彦（郷土史家）



▲ 石神井城内郭の空堀と土塁

♪ 地元で誕生した「石神井 int'l オーケストラ」に期待する ♪

石神井を拠点とした新しい弦楽オーケストラ

2013年8月、地元石神井公園を拠点に新しく石神井 Int'l (international) オーケストラが音楽監督 西谷国登氏により発足しました。

愛称「石(しゃく)オケ」として楽団員や地元の方々にも親しまれ活動開始！地域コミュニティーとも連携し、創立にあたり練馬まちづくりセンター登録団体として認可された。将来的に海外への遠征や交流など国際的な活動も視野に入れ、数年後にはフルオーケストラ(管弦楽団)新設を目指している。2014年6月21日、第1回定期演奏会を文京シビックホールにて、第2回を練馬文化センターにて開催し好評を得た。2015年5月にはアメリカ・イリノイ音楽大学 R.ハケン教授をゲスト講師として招待した。

～音楽監督・西谷国登氏の挨拶より～

団員の熱い想いにより、リハーサル毎に急成長しております！演奏が困難で「こんなの無理！」なんて言う団員達でさえ、いつの間にか演奏出来るようになりよりレベルの高い曲を目指すようになりました。リハーサルでは笑いあり、情熱あり、大声を出しながら工夫をして皆さん頑張られております。1音でもより良い音を出して、一步でもレベルの高い演奏を心掛けております。



最終的には、質の高い演奏を目指しつつ、楽しくて入りたいけど中々入れない！そんなオーケストラを目指して行こうと思います。

来年6月19日清瀬けやきホールにて、第3回演奏会が予定しています。

★公式ウェブサイト <http://shakuoke.com>

音楽監督・指揮者：西谷国登氏が中心となる (同氏略歴より)

西谷氏は、ニューヨーク大学大学院を修了後、米国や日本で、音楽祭やセミナー、マスタークラス等に招待され、指揮活動を多々行い活躍中である。

また、複数の米大学にて講師を務め、幅広い活動を行っている。

著書に『ヴァイオリン留学愚痴日記@米国オレゴン州ポートランド』(文芸社)『国登ヴァイオリン教本(DVD付) Op.1』(サーベル社)。

★公式ウェブサイト <http://nkunito.com>



音楽監督・西谷氏に3つの質問します

Q. 西谷さんは、留学経験をされていますが、海外での生活は何年位されましたか？

A. 高校卒業後渡米しまして8年程アメリカにいました。西海岸のポートランド州立大学、東海岸のニューヨーク大学大学院で勉強しました。その後は、アメリカの大学で講師を務めました。

Q. 石神井 Int'l オーケストラと大きな名称を付けられていますが、その由来や将来の計画について、お尋ねします。

A. 石神井は、もちろん私が石神井出身だということ、そしてインターナショナルは、活動範囲が、将来的に国際的に演奏活動が出来る団体にしたいと思い名付けました。

Q. 現在は、弦楽器主体ですが？将来、いつ頃からフルオーケストラを目指されますか？

A. 可能なら来年からでも！ですが、練馬区では、練習室の確保が難しく、金管楽器等、音の大きい楽器の使用が許される施設があまり有りません。もし、何か良い情報をお持ちの方がいらっしゃいましたら、当団までお知らせください。

第4回「石神井・再発見ウォーク」 「石神井講演池南方の台地を巡る歴史散歩」

- ◎開催日：平成27年10月17日（土）
 ◎時間：13:00～15:00
 ◎歩行距離：約2・3km
 ◎集合 石神井公園駅中央改札口前 午後1時
 ◎会費 300円
 [コース] 石神井公園駅～①記念庭園（旧・第二豊田園）～②伝・亀の尾城跡～③禅定院（いぼ地蔵・キリシタン燈籠・南北朝期板碑・第三中学区第五番小学豊島学校跡）～④甘藍（キャベツ）の碑～旧所沢道～⑤道場寺～⑥三宝寺（勝海舟邸長屋門・地蔵堂・御成門）～⑦栗原家長屋門～⑧石神井公園ふるさと文化館（解散）
 ◆主催：お申し込みは、石神井町づくりの会
 ☎&FAX 5393-7381

第13回練馬まちづくり「歴史と文化講座」 立花家17代当主が語る立花宗茂の生涯について

- ◎日時：平成27年11月1日（日）
 第1～2部の講演は13:00～14:20
 ◎場所：石神井公園ふるさと文化館多目的会議室
 ◎定員：第1～2部 申し込み先着80名、
 第3部 申し込み先着30名
 ◎テーマ：第1部：17代当主が語る立花宗茂の生涯 第2部：筑後国柳河立花藩史
 第3部：廣徳寺見学は15:00～17:00
 ◎講師：17代当主立花宗鑑氏
 歴史家葛城明彦氏、廣徳寺福富住職
 ◎会費：第1～2部 500円
 第3部 300円
 ◆主催：お申し込みは、南田中のまちを考える会
 ☎&FAX 5393-7381

●●●●● 編集後記 ●●●●●

現在日本の人口は、約1億2,700万人だが少子高齢化で2048年には1億人を下回り、2060年には約8,700万人に落ち込むと推定されている。このまま人口が減り続けると労働力が減り産業や経済は縮小してしまい、国民生活が縮んでしまうことになる。年金、医療、介護などの社会保障制度が維持出来なくなってしまうことになる。また社会全体の活力が失われ、日本経済が停滞し、社会全体の活力が失われることにもなる。これら少子化の原因として挙げられているのが経済力に不安がある若者の増加と、また晩婚化や未婚率が進んだことでもある。若者や女性が働きやすく、子どもを育てしやすい社会環境をつくるかが今後の大きな課題である。（下河秀行）

★★★ 会員募集のお知らせ ★★★

平成14年4月から、石神井公園駅周辺地域の住みよいまちづくりの活動を行っています。

石神井まちづくりの会では、この度新規会員を募集しています。地域のまちづくりに興味がある方は、年齢・性別等は問いませんので、どしどしご応募して下さい。

1. かるがも便りの発行（春夏秋冬の年4回）。
2. 石神井のまちづくり活動。
3. 「石神井・再発見ウォーク」の開催。
4. 消費生活展への出展
5. その他です。

定例会は、石神井公園区民交流センター「消費者団体活動室」で行っています。

◎詳しいお問い合わせとお申し込みは、石神井まちづくりの会 ☎ 5393-7381 下河まで。



石神井
まちづくりの会

ご意見やご連絡は、電話またはFAXをご利用下さい。

TEL&FAX 03-5393-7381 携帯 080-6607-4321 (H・S)

かるがも便りは、区民交流センター、石神井庁舎、えーる、石神井図書館、南田中図書館、ふるさと文化館等にあります。

安心・安全をサービスにおもてなし

石神井公園

また行ってみたい商店街へ

西友通り商店会

～防犯カメラを設置しました～ ※加盟店36店舗

